

第一編

ミッション再定義

海洋立国を支える海技者養成教育の高度化と
総合性を備えたグローバル海洋人材の養成

I. ミッション再定義

文部科学省は、国立大学法人の大学及び部局に対して、それぞれが持つ「強み」や「特色」及び社会的役割について、それぞれを精査し、提出することを求めた。

海事科学研究科及び海事科学部は、約 100 年の歴史を持つ深江キャンパスの実績と今後の指向すべき教育内容と研究内容を鑑み、以下のとおりまとめた。

(1) 個票（文部科学省提出報告書より転載）

①設置目的等

神戸大学海事科学部の前身となる私立川崎商船学校は、我が国における海運の重要性を認識し、造船造艦の技術を十分に活用する優秀な船員を養成する必要があることから、「士魂商才」の船員を養成することを目的として、大正 6 年 9 月に設置された。教育方針としては、「所要の科目中、英語に重きを置き、実物教育を施すことに務め、かつ人格高尚、志操堅実にして、商船に適切なる職員を養成することを目的とする」と掲げられていた。

当初は中等学校程度であったが、東京高等商船学校との格差を是正するための運動を展開し、大正 9 年 8 月に私立川崎商船学校は廃校となり、そのまま継承してわが国 2 番目の官立高等商船学校である神戸高等商船学校に昇格した。

昭和 18 年に 3 番目の官立高等商船学校として清水高等商船学校が開校すると、政府の方針によって高等商船教育の統合が目指されることになり、昭和 20 年に神戸高等商船学校・東京高等商船学校・清水高等商船学校を統合して、清水市に高等商船学校が設置された。この時、神戸高等商船学校の土地・施設は高等商船学校神戸分校となり、海技専門学院が新設・併置された。昭和 21 年 3 月、高等商船学校神戸分校が廃止された。

戦後新しい学制のもとで、海運の再建は優秀な商船隊の保有と優秀な海運人によって可能となることから船員教育の高度化を目的とした商船大学設置の機運が高まり、昭和 27 年に兵庫県内で 2 番目の国立大学として歴史ある深江の地に神戸商船大学が設置された。

大学創立後約 20 年間は学士教育のみであったが、昭和 39 年に大学卒の海技従事者の再教育に寄与する専攻科が設けられ、昭和 49 年に大学院修士課程が新設され、教育研究の活性化の面で大きな影響を与えるようになった。

昭和 51 年度入学者から、4 年 6 か月の修業年限を学部 4 年とし、海技免許取得を希望する者は、卒業後引き続き 6 か月の乗船実習科に進学するよう改正されたことに伴い、乗船実習科が設置された。

平成 9 年に商船学の基盤であった輸送機能を中心にした大学院博士課程が新設された。

平成 10 年代の国立大学改革の流れの下で「個性豊かな、海に開かれた総合大学」として更に発展することを目的として平成 15 年 10 月に神戸大学と統合した。近年の海事社会では総合的な観点から種々の課題に取り組む問題が必要なことから、神戸商船大学が長年にわたって蓄積してきた海事科学技術分野における実績と、総合大学である神戸大学が有する幅広い分野にわたる知的財産を連携させるという目的を掲げていた。

神戸商船大学と神戸大学が統合し、神戸大学に海事科学部・乗船実習科が設置された。また、大学院自然科学研究科に博士課程前期課程・博士課程後期課程が設置された。

平成 19 年に、学士課程から、博士前期課程、博士後期課程を通じた教育の組織展開を図り、従来の分野横断的な教育研究を維持しつつ、学生の視点に立った教育、ディシプリンを重視した教育の展開を図ることを目的に、自然科学研究科を改組し、ディシプリンを重視した教育を行う区分制の海事科学研究科博士課程（海事科学専攻）と分野横断的な学際教育研究を行う自然科学系先端融合研究環が設置された。

②強みや特色、社会的な役割

神戸大学は、国際性、人間性、創造性並びに専門性豊かな指導的人材の育成を通して、海事科学と国際海事社会の発展に貢献することを目指して教育、研究、国際交流、社会貢献に取り組んでおり、以下の強みや特色、社会的な役割を有している。

○ 世界に開かれた国際港湾都市神戸に立地する総合大学として、海事に対する深い理解を持ち、総合的な視点を有して事象を捉えることのできる幅広い知識や能力を有する高度技術者の育成を充実するとともに、より専門的な海事に関する科学技術を備えた指導的人材の育成の役割を果たす。

○ 海洋立国を支える海技者養成教育の高度化と総合性を備えたグローバル海洋人材の養成を目指した学科改組や、複眼的な視野の涵養を目的とした近隣大学との連携による関西海事教育アライアンスの連携事業及び学内の他分野との分野横断的な先端融合教育プログラムなど特色ある教育改革を進めてきた実績を生かし、一層の学際性・国際性の醸成を目指した教育改革を進め、グローバルに活躍できる人材を育成する学部・大学院教育を目指して不断の改善・充実を図る。

また、我が国のライフラインである国際海上輸送に係る海技者、特にリーダーシップを有する船舶職員の供給というこれまでの使命と実績を継承するとともに、研究科附属練習船や船舶運航シミュレータ等学内設備の有効利用と学外訓練機関や船社との連携によって、より実践的な海事教育を目指して一層の改善を図る。

- 安全性、経済性及び環境保全に配慮した国際海上輸送システムに関する先端研究や、港湾・船舶の防災・減災に関する技術開発などの研究実績と、内海域環境や都市安全研究に関するセンターを含めた分野の枠組みを越えた全学協力体制及び学外機関との連携体制も生かし、津波など自然災害を対象とした防災科学技術や海洋エネルギー開発など、海事・海洋分野を中心とした学際的な研究を推進する。

- 海難防止や港湾に係る兵庫県をはじめとする地方自治体等の専門委員会への参画等を通して我が国の海上安全確保へ貢献するとともに、歴史的海事資料の公開や練習船を用いた青少年対象の海洋教育活動等を通して海洋に関する国民の理解の増進に寄与する。また、世界の海事系大学の連合である国際海事大学連合の諸活動への参画やアジア・アフリカ地域の海事系大学との連携を通して国際海事社会への貢献を推進する。

- 大学院博士課程後期課程への社会人受け入れや、登録水先人養成施設として実施する社会人への「水先人養成」など、社会の要請に応じた機能を果たすとともに、社会人の学び直しを推進する。

